

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和二年十一月度 入選句（投稿総数三千七十六句・一般投句数五百六十三句）

特選

静かさを動かしているすすきの穂

大垣市

今津 絹代

先日合同吟行にて桑名へ参りました。晩秋の日差しも柔らかく堤防の草木も風と戯れるかに見るものの心を和ませてくれる一日でした。
この句の表現の巧みさに感心いたしました。すすきの穂が風に白光しつつ揺れている様に安らぎを感じます。

糠床の香りも今朝の今年米

大垣市

臼井 秀子

日常のさりげない景ですが、心に浸みる句ですね。爽やかな秋の食卓が浮かんで参ります。糖漬を噛む音まで聞こえて来るようです。

小鳥来る山里に声四方から

大垣市

三輪 葉加

町の中でも朝早くから美しい声に耳をかたむける今日此の頃です。山里であれば尚更ですね。こちらの山から、あちらの谷からと秋の澄んだ中何の鳥かしら、名前おしえてよと語りかけなくなるね。晩秋から初冬は大好きです。俳句はいいですね。

秀逸

その話断れと柿厚く剥く

東京都世田谷区

関戸

信治

信玄の野望沈めて山眠る

養老郡養老町

林

寛子

土砂降りの過ぎし静寂秋の虹

大垣市

大角

信華

揺さぶりに耐へて川原の野菊かな

海津市

横井

美圭

朔日の櫛あをを神の留守

大垣市

宮脇

和子

冬初め日暮すぐそこ鯨の先

大垣市

田中

雅子

よく話す木真っ先に紅葉す

大垣市

川瀬

正一

白樺の空美しき神の旅

大垣市

村田

通夫

就活の靴の埃や今日の月

大垣市

田口

貞善

見覚えのある文字の癖柿届く

大垣市

高木

歌佐

入選

癩癒へて五臓六腑にしむ新酒
 虫すだく昼の小鮫や不破の関
 飛石に舞妓棲取る石露の花
 朝まだき秋冷忍び込みし窓
 飲んべえは父方の血よ新走
 日々増ゆる幼のことば小鳥来る
 幼子の瞳キラキラ木の実独楽
 日の当たる天守の矜恃片時雨
 芭蕉揺れ鉄心門の鉾の錆
 色変えぬ松鳶とらえ湖の風

安八郡神戸町 早津 郁男
 不破郡垂井町 宮代 一草
 兵庫県芦屋市 田原 トミエ
 京都府京都市 八田 弥須子
 東京都新宿区 花澤 ちいこ
 養老郡養老町 田中 紫香
 大垣市 在間 琇子
 大垣市 小林 研
 大垣市 山田 賀子
 大垣市 高田 雅章

入選

息をつく坂道雨後のこぼれ萩
 残照が谷間に残る雲をそめ
 土手飛び火して曼珠沙華鎮火せず
 暮の秋長身となる子の影よ
 手に受けし落葉かすかに日の匂ひ
 冬麗カフカ読みをるカフエの窓
 鷹渡る人の生業見下しつ
 捨てかかし役目を終えて畦に寝る
 重陽の深林ゆるがす大太鼓
 スカーフに戯れ遊ぶ秋の風
 気紛れの風やコスモス右往左往

大垣市 立川 昌子
 大垣市 土屋 和馬
 岐阜市 堀江 美州
 大垣市 傍島 豊子
 大垣市 福田 みゑ
 安八郡安八町 渡辺セラヴィ
 東京都狛江市 椎野 一恵
 大垣市 宮川 浩
 大垣市 渡辺 智子
 大垣市 松岡 みつ
 大垣市 村瀬 利明

選者吟

澄みし綾線点々と木守柿
 美代子